

私立 成城大学

少人数制・個性尊重の理念を活かした全方向的キャリア支援

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒157-8511 東京都世田谷区成城6丁目1-20
設置者	学校法人 成城学園

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

初年次から具体的かつきめ細かなキャリア支援プログラムを展開することにより、学生に自らキャリア形成を考えるきっかけを提供し、各自の個性や適性、さらには大学で学ぶことの意義を発見させていくことを目的とした。これはまさに本学の教育理念『個性尊重』の精神に沿った支援であり、結果として学生が学士力を身に付け、自らの個性・適性に沿った進路選択を実現できることに繋がる。

具体的には、1～2年生向けには、外部からも非常に高い評価を得ているキャリアサポートプログラム「MAP」を中心としたサポートプログラムを実施し、学生に自らのキャリア形成を考えさせるきっかけを提供した。また、3年生や就職未内定の4年生向けには、少人数制の各種「就職活動支援講座」を実施し、講座を通じて学士力を身に付け、自らの個性・適性に沿った進路選択を実現できるようサポートした。

到達目標

本取組の実施により学生自らが早期からキャリア形成を意識し、これを実行に移し、結果として各々が満足度・納得度の高いキャリア形成・進路選択を得られたと実感してもらいたいと考えた。そのために各年次においてきめ細かで多彩な支援を展開したが、「低学年向けプログラム」では、学生自身が自らのキャリアデザインの必要性を自覚することを目標にプログラムを展開した。また、各種「就職活動支援講座」を通じて、学生が概ね満足・納得した進路決定を得ることで、大学全体でも、就職希望者に対する内定率を、毎年度90%を超える高い目標を掲げた。

プログラムの実施内容

本プログラムは、キャリア支援部が中心となり、全学年次の学生に対応する多角的なキャリア支援体制の確立を図るため、①低学年次からのキャリアサポートプログラムの実施・拡充、②少人数制による就職支援・キャリア支援講座・セミナー等の開設、③卒業生との連携強化による具体的な就職イメージの獲得及びOB・OG訪問体制の確立、④心のケアを含む学生個別相談体制強化のためのキャリアカウンセラー・相談員等の増員及び施設拡充、という4つの柱を中心に実施した。具体的には、①については、1～2年生向けに「MAP1」「MAP2」「MAP neo」「キャリアデザイン・ワークショップ」をそれぞれ実施した。②については、①で述べたプログラムに加え、3年生向けに「自己分析講座」「エントリーシート対策講座」「面接対策講座」「就職活動総合講座」や講座定員を最大12名までにした各種「ミニ講座」を、4年生向けに「未内定者向け支援プログラム」を、それぞれ開設した。③については、同窓会との連携に加え、毎秋に学内にOB・OGを招いての「OB・OG懇談会」を開催し、学生が身近な先輩から貴重なアドバイスを得る機会を提供した。④については、キャリアカウンセラーをそれまでの3名から4名に増員し、相談ブースの拡充も図った。また、職員研修を積極的に行い、職員全体の能力向上を図るとともに、4名のキャリアカウンセラーと管理職職員、本学学生相談室専任カウンセラーによる「情報共有会」を毎週実施し、学生の心のケアも含めた幅広いキャリア支援体制を構築した。

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

学内では、どのような方法で周知徹底したのか。

大学ホームページに本プログラムの概要を掲載し

た他、学生には①キャリア支援部の掲示板へのプログラム案内の掲示、②学内ポータルサイト「Campus Square for Web」からの一斉メール配信、③学内求人情報検索システム「求人 NAVI」からの一斉メール配信、によりプログラムの周知をした。また、教員には各学部選出の「キャリア支援委員」による「キャリア支援委員会」において、プログラム周知と内容報告をし、各委員から学部教授会を通じて教員への周知も行った。なお、MAPの最終プレゼンテーションの際は、学内グループウェアシステム「AST100」を利用し、他部署職員にも開催を周知、学長を始め多くの参加を得た。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか。

本学のプログラムは、(1) 1・2年生向け「低学年向けプログラム」、(2) 就職活動へのサポートを中心とした「3年生向けプログラム」、(3) 未内定者向け「4年生向けプログラム」、と大きく3つのカテゴリーに分けることができる。到達目標もそれぞれ異なるため、これらに分けて、評価の観点も変えて自己点検評価を行った。具体的には、「低学年向けプログラム」では、学生がプログラムの受講により今後の自身の成長に繋がれると感じられたかどうか、そしてその後の学生生活がより充実したものとなるための、きっかけとなるプログラムであったかどうか、という観点を重視した。

「3年生向けプログラム」は、就職活動に適切なタイミングで提供できているかどうか、即ち、ガイダンスの参加数や講座の申込状況はどうであったか、という観点、またプログラムの内容についての観点、そして、プログラムによって就職活動へのモチベーションの向上ができたか、という観点で評価した。「4年生向けプログラム」は、未内定者へのサポートであるため、学生がプログラム受講により納得できる進路選択ができたかどうか、という観点、4年生全体での毎年の内定率はどうかであったか、という観点である。この他に、個別相談利用ニーズに対応するための体制構築ができたかどうかについて、情報共有会によって、学生相談の質の向上は図れたか、職員研修によって職員全体の能力向上が図れたか、そしてその結果、学生相談の件数はどう推移したのか、という観点で評価した。

②到達目標に達したか。

本プログラムの到達目標は概ね達成された。「低学

年向けプログラム」では、「MAP」で、学生に「気付き」や「能動的に考えること」の重要性を伝えるという、プログラムの目標は達成できた。参加学生もその後の学生生活を充実して送っており、卒業後もそれぞれの進路で活躍している。しかし、年を重ねるにつれ、トップ層を育てる結果になっているとの指摘もあり、全学生の底上げを企図した見直しを行った。

「キャリアデザイン・ワークショップ」では、学生が自身の将来への展望を見出し具体的な目標を設定すること、そして将来を見据えた上で大学生活の過ごし方や行動を考えるきっかけ作りをすること、という目標は到達できた。もっとも、2011(平成23)年度から始動した「成城大学就業力育成・認定プログラム」との一部重複もあり、相乗効果を出すための連携が課題となった。

「3年生向けプログラム」では、「就職ガイダンス」「就職支援ワークショップ」「OB・OG懇談会」など多くの学生を対象にしたプログラムは、参加学生数も多く、就職活動に取り組む際に最低限知っておいてもらいたい知識・情報を多くの学生に提供するという目標は達成できた。学生の関心・満足度も高かった。(資料1)

定員を設けた各種「少人数講座」では、講座の申し込み状況も概ね良好で、学生の求める講座を的確に提供できた。学生がそれぞれの講座で、自分自身の問題に気付き、問題意識が高まった点も目標に到達できた。(資料2)

各種「ミニ講座」では、一人ひとりの個性や進度に合わせながら適切に講座を実施でき、学生の気付きも大きく、効果的な就職支援となった。その意味で「少人数制・個性尊重」という本学のプログラムの特色を具現化できた。(資料2)

「4年生向けプログラム」の「未内定者向け支援プログラム」では、学生が納得した進路選択ができることを目標に、きめ細かなサポートができた。実際の内定獲得にも繋がり、多くの学生が納得した進路選択に繋げることができた。(資料3)

「個別相談体制」については、ブースの増設とキャリアカウンセラーの増員をそれぞれ行い、学生相談室のカウンセラーも加わった「情報共有会」で相談の質も向上した。さらに、職員研修で習得した知識・技能も、「ミニ講座」の講師や「模擬面接」の面接官をすることで学生に還元した。全体的にきめ細かな質の高い支援体制を構築でき、相談件数も毎年増加した。(資料4)

③具体的な成果は何か。

プログラム全体

本プログラムの成果は、まず就職（内定）率が毎年度90%を超え、全国平均を上回る数値となっていることから明確に現れている。（資料3） また、本プログラム自体が、有識者の方から高い評価を受けていること、マスコミでも既に多数取り上げられていることで確かめられる。

中でも、低学年向けプログラム「MAP」は、様々な媒体で取り上げられている。特に日本キャリアデザイン学会会長の川喜多喬氏からは、氏のブログで高い評価をいただいた。（<http://e-humanresourcemanagement.com/content/view/117/34/>）。（資料5）

また、2010(平成22)年11月24日放送のBSフジ「PRIMENEWS」では、『就活断層時代 徹底検証！大卒就職難の実態と解決策』というテーマの中で、大学の注目される取組として取り上げられた。（資料6）この他にも、週刊エコノミスト（2011(平成23)年1月25日号）の「就職氷河期20年」という特集の中で取り上げられた。（資料7）

3年生向けプログラムについては、2011(平成23)年1月10日放送のNHKラジオ第一の「徹底応援！就活ラジオ」という番組で、ミニ講座「業界・企業研究講座」などで本学学生に実際に指導している方法が取り上げられた。（資料6）

また、「MAP」を始めとする本プログラム全体が、経済産業省事業「ジョブカフェ・サポートセンター」の「キャリア形成・就職支援 教育機関取組事例集」に取り上げられた。（資料8）

低学年向けプログラム（資料9）

「MAP」、「キャリアデザイン・ワークショップ」とともに、プログラムに参加した学生が、それまで不明確だった自己の将来ビジョンを明確にでき、それを実現するためにどう行動すれば良いかを自分なりに把握できたこと、これにより、自分たちの意識・行動の変化を学生が自覚したことは、大きな成果であった。プログラム参加後の学生はその後、課外活動のリーダーを務めたりするなど、より能動的に行動するようになっている。結果的に本人が納得する進路選択もでき、順調に社会に巣立っている。

特に「MAP」は、プログラムの活動（成果）報告書を、参加学生を中心に作成させたが、プログラムで得られたものを学生が振り返る場となり、今後の学生生活についても改めて考えさせる効果があった。

（資料10）

また、先述のとおり「MAP」自体が、特色のあるプログラムとして外部からも評価されたことも、大きな成果であった。

3年生向けプログラム（資料9）

・「就職ガイダンス」・・・ガイダンスを軸に就職活動を組み立てていく学生や、ガイダンスをきっかけにキャリア支援部を活用するようになった学生など、学生それぞれにとって、自分の就職活動のスタイルを確立していくきっかけとなった。

・「就職支援ワークショップ」・・・具体例や実例を挙げて説明することを心がけてワークショップを進めたことから、「実際に取り組んでみること」や「自分の足で稼いだ情報」がいかに大切に学生が気付き、学生の行動力を喚起させることに繋がった。

・「就職活動総合講座」・・・スケジュールの変更で生じていた就職活動への不安が解消され、本講座受講が「動機付け」となって、多くの学生が就職活動に真剣に向き合うことができるようになった。

・「模擬面接」・・・面接に対する安易な考えが払拭され、学生が自分の課題を自覚することができた。また、問題意識を持つだけでなく、その後の改善意欲の醸成に繋がり、改善度合い確認のため、再度模擬面接を受けたり、個別相談を利用する学生も多数いた。

・「ミニ講座」・・・学生が自分に必要な講座を自分で考えて選択受講できるスタイルにしたため、学生の受講意識を高めることに繋がった。また、少人数でのワーク中心の講座展開にした結果、グループの中で学生が互いに刺激し影響しあう、グループ・ダイナミクスの効果があり、学生自身の自己効力感を高めることにも繋がった。

4年生向けプログラム

・「未内定者向け支援プログラム」・・・就職活動に行き詰まり感を抱えていた学生にとって、自分の課題を再確認し、これからの目標を改めて設定する機会となり、その後の内定獲得へと結びつけることができた。きめ細かなサポートは学生の安心感にも繋がった。

個別相談体制の構築

各年度の個別相談件数は、別表のとおりである。件数は毎年度増加しており、2007(平成19)年度(955件)から比べると、2011(平成23)年度は4倍以上(4,189

件)に増えている。きめ細かなサポートの姿勢が、学生からも評価される数値結果となった。(資料4)

今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

3年間のプログラムを報告書にとりまとめ(資料10)、有識者、企業、父母、他大学等へ広く配布・周知することで、本プログラムに対する様々な意見をいただき、成果を今後活かしていく。特に、今後は「成城大学就業力育成・認定プログラム」との関係性も強化し、「気付き」を「行動」にいかにつなげていくか、という観点を重視してプログラムの更なる展開を図る。

2. 今後の計画

低学年向けプログラムは、「MAP」と「キャリアデザイン・ワークショップ」を整理・統合する。これまで築き上げてきた土台を基に、全体のボトムアップも考慮し、これまでのプログラムを発展させた形での新プログラムを2012(平成24)年度より実施予定である。

3・4年生向けプログラムは、基本的にこれまでのスタイルを踏襲するが、今後頂戴する各方面からのご意見も参考に、学生が自信をもって自分のスタイルを確立し、自らキャリアデザインをしていけるよう、学生を指導・育成していく。

就職未内定者への支援策

1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

2009(平成21)年度は後期に、2010(平成22)・2011(平成23)年度は前・後期に、少人数講座とその後の個別相談をセットにしたプログラムを実施した。講座で受講者の現時点での問題点を明らかにした上で個別相談を通じてその改善を行った。講座を受けさせるだけでなく、その後の個別相談をパッケージ化したことで、きめ細かなサポートができ、実際の内定獲得にも繋がった。さらに、2011(平成23)年度は、10月末時点で個別相談を継続利用している未内定者を対象に、「集団模擬面接会」を行い、その結果と学生個々の特性並びに学生自身の希望を踏まえて、その後の個別相談を中心とする支援体制の見直し・強化を図り、内定獲得までのサポートを行った。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

それまで個別相談を利用していた学生については、卒業時に本人の意思を確認し、継続して相談の希望がある場合は、卒業後も引き続き早期の就職を目指したサポートをした。また、希望者には企業から送られてくる既卒者向け求人票を閲覧できるようにした。

資料 1

就職ガイダンス等アンケート集計表

(参加学生数100名以上)

年度	プログラム名	日程	テーマ	参加学生数	参加学生からのアンケート結果 (回収分)						
					とても役立った	役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	役立たなかった	無回答	
21年度	就職ガイダンス	5月15日	これから始まる就職活動の全体像について	450名	45.3%	46.9%	2.3%	0.0%	0.0%	5.5%	
		6月26日	自己分析からの就職活動の進め方	440名	41.2%	51.2%	2.4%	0.5%	0.0%	4.7%	
		10月2日	業界・企業研究からの就職活動の進め方	490名	34.3%	50.5%	5.9%	2.0%	1.5%	5.9%	
		11月20日	履歴書・エントリーシートからの就職活動の進め方	490名	57.0%	36.0%	1.2%	0.4%	0.4%	5.0%	
	就職支援ワークショップ	11月24日	面接対策からの就職活動の進め方	500名	56.0%	37.3%	2.0%	0.5%	0.0%	3.4%	
		11月7日	就職活動研究セミナー	120名	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
22年度	就職ガイダンス	5月13日	最新の就活動向とやり切るポイントについて	530名	53.3%	40.2%	3.1%	0.0%	0.0%	3.4%	
		7月1日	成城大生のための一皮剥ける夏休みの過ごし方	500名	56.9%	36.5%	3.6%	0.0%	0.0%	3.0%	
		9月28日	就職活動における自己分析の重要性	375名	30.8%	62.7%	3.8%	0.0%	0.5%	2.2%	
		10月18日	業界・企業研究からの就職活動の進め方	410名	31.6%	54.1%	10.5%	0.0%	0.0%	3.8%	
		11月11日	就職活動における履歴書・エントリーシートの書き方	645名	35.9%	55.2%	3.4%	0.7%	0.3%	4.5%	
		12月3日	就職活動に必要なマナーについて	320名	76.8%	18.2%	0.0%	0.6%	0.6%	3.9%	
		12月7日	面接対策からの就職活動の進め方	455名	40.7%	50.7%	2.4%	1.4%	1.0%	3.8%	
		1月29日	合同企業セミナーの効果的利用方法	105名	75.9%	20.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	
		OBOG懇談会	11月20日	第1部 トークセッション	300名	55.1%	35.3%	4.2%	1.2%	0.0%	4.2%
				第2部 OBOG訪問会		68.1%	28.7%	1.1%	0.0%	0.0%	2.1%
23年度	就職ガイダンス	7月5日	就職活動のスケジュールと夏休みの過ごし方について	435名	52.7%	42.6%	1.5%	0.3%	0.0%	3.0%	
		9月30日	就職活動における自己分析の重要性	430名	40.8%	53.2%	2.3%	0.5%	0.5%	2.8%	
		10月12日	業界・企業研究からの就職活動の進め方	446名	36.7%	53.8%	5.3%	0.6%	0.0%	3.6%	
		11月17日	就職活動における履歴書・エントリーシートの書き方	565名	36.1%	53.2%	7.1%	0.8%	0.4%	2.4%	
		11月29日	就職活動における企業へのアプローチ方法	365名	48.2%	43.2%	2.9%	0.7%	0.0%	5.0%	
		12月6日	就職活動に必要なマナーについて	335名	76.3%	18.6%	1.4%	0.0%	0.0%	3.7%	
		12月15日	面接対策からの就職活動の進め方	445名	30.2%	56.8%	8.9%	3.0%	0.0%	1.2%	
		OBOG懇談会	11月19日	OBOG訪問会	386名	72.3%	25.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			11月26日	第1部 トークセッション		53.0%	45.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
				第2部 OBOG訪問会	793名	72.0%	28.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料 2

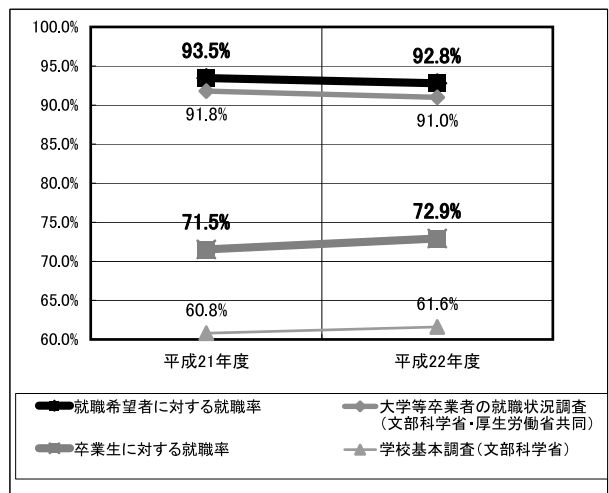
少人数講座・ミニ講座 参加人数表

年度	講座種類/講座名	講座日数	実施コース数	定員/回	合計定員	参加学生数		
平成21年度	少人数講座	自己分析講座	5日間	3コース	20名	60名	59名	
		エントリーシート対策講座	4日間	3コース	25名	75名	75名	
		面接対策講座	3日間	3コース	25名	75名	65名	
	ミニ講座	就職ガイダンス・フォローアップ講座	1~3日間	6コース	10名	60名	54名	
		就活シミュレーション講座	3日間	1コース	10名	10名	8名	
		就職活動スタート講座	2日間	3コース	8名	30名	30名	
		弱点克服ポイント講座 就職活動に関する業界・企業研究講座(ベネッセ編・アド・ヒュス編) エントリーシート対策講座(ベネッセ編・アド・ヒュス編) グループディスカッション体験講座 模擬面接講座 模擬面接後講座 就職相談会	1日間	全22コース	10名	220名	169名	
	平成22年度	少人数講座	自己分析講座	3日間	5コース	20名	100名	90名
			エントリーシート対策講座	2日間	4コース	30名	120名	120名
			面接対策講座	2日間	4コース	30名	120名	119名
就職活動スタート講座			2日間	18コース	8名	144名	144名	
自己分析講座			2日間	11コース	10名	110名	110名	
ミニ講座		業界・企業研究講座	2日間	12コース	10名	120名	120名	
		就活なんでも相談会	1日間	4コース	10名	40名	14名	
		グループディスカッション体験講座	1日間	6コース	12名	72名	71名	
		弱点克服ポイント講座 自己分析講座 業界・企業研究講座 エントリーシート対策講座 グループディスカッション体験講座 グループディスカッション体験講座 模擬面接講座 模擬面接後講座 就職相談会	1~2日間	全22コース	10名	220名	152名	
		平成23年度	少人数講座	就職活動総合講座(10月編)	3日間	3コース	30名	90名
就職活動総合講座(11月編)	3日間			3コース	30名	90名	86名	
面接対策講座	2日間			4コース	30名	120名	101名	
ミニ講座	弱点克服ポイント講座(新4年生向け) 自己分析講座 エントリーシート対策講座 志望職種をもう1グループディスカッション体験講座 模擬面接講座 模擬面接後講座 就職相談会		1~3日間	全29コース	10名	290名	201名	
	就職活動スタート講座		2日間	8コース	12名	96名	96名	
	自己分析講座		2日間	7コース	12名	84名	84名	
	業界・企業研究講座		2日間	9コース	12名	108名	108名	
	グループディスカッション体験講座 *定員超過		1日間	4コース	24名	96名	95名	
	エントリーシート対策講座		1日間	7コース	12名	84名	84名	
	弱点克服ポイント講座 自己分析講座 志望職種作成のための業界・企業研究講座 グループディスカッション体験講座 模擬面接講座 就職相談会		1~3日間	全28コース	10名	280名	180名	

資料 3

就職率推移表(平成21年度~平成22年度)

	平成21年度	平成22年度
卒業生数	1,257	1,341
就職希望者数	962	1,054
就職者数	899	978
就職希望者に対する就職率	93.5%	92.8%
大学等卒業者の就職状況調査(文部科学省・厚生労働省共同) *就職希望者に対する就職者で就職率を算出	91.8%	91.0%
卒業生に対する就職率	71.5%	72.9%
学校基本調査(文部科学省) *卒業生数に対する就職者で就職率を算出	60.8%	61.6%



*平成21年度・平成22年度の大学の就職率は、何れも全国平均を上回っている。

*平成23年度については、現在調査中であるが、「就職希望者に対する就職率」は90%を、「卒業生に対する就職率」は70%を、それぞれ超える見込みである。

資料 4

個別相談件数表(平成21年度～平成23年度)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
4月	384	429	295
5月	278	279	371
6月	273	310	293
7月	189	193	322
8月	45	66	173
9月	77	105	169
10月	253	276	318
11月	241	271	368
12月	267	344	502
1月	397	409	479
2月	424	433	502
3月	410	302	397
合計	3,238 件	3,417 件	4,189 件

参考 平成19年度 : 955件
平成20年度 : 1,927件

資料 5

川喜多喬&アソシエイツ - 人生の地図を眺める..成城大学のMAP

Page 1 of 3

川喜多喬&アソシエイツ - 人生の地図を眺める..成城大学のMAP

HOME お知らせと標準 法政大学人材育成研究所 ;



川喜多喬

You are here: Home 法政大学人材育成研究所 この人にあつた! のMAP

私の著作活動

著作活動

3日で多機能サイトを構築!

GOYAT

川喜多喬&アソシエイツのサイトは、Goyat LLCが構築しました。オープンソースCMS Joomlaをカスタマイズしています。

1. ページ更新に苦労されている学会、
2. ページ更新で費用負担が大きい会社、
3. 直ぐにページをアップされたい協会、
4. 直ぐに使える機能を求めている法人で人気です。

人生の地図を眺める..成城大学のMAP

成城大学キャリア支援部の方から、MAPという小冊子を送っていただいた。2006年度から初めて今年5年目を迎えた、学生から社会人への移行を準備させていく自律支援活動の報告書である。MAPはMy Advanced Projectの頭文字とのことだが、冊子の中に発案者の言葉で書かれているが「地図」からきていることは容易に想像がつく。「地図」は自分が生きる世界の地図であろうし、その地図には白紙のところもあろう、線と点と記号などで推測しつないでいくべきところもあろう、また新たに道をつくるべきところもあろう、しかし地図なしに世間に出ていくことは危うい。地図に目標地点が書いてあるわけではない。目標地点は自分で決める。しかし到達の道は地図上で探さねばならない...キャリアを階段とか網渡りにたとえるよりも、おもしろいアナロジーである。

キャリア教育、というと教員や外部講師が学生に教えるべきもの、といったニュアンスを感じ取る人もあろうが、教えがいのある人になることは第一歩だが、教わり続けねばならぬ人は、今後の知識経済のなかの組織では低く評価されるであろう。自主的に学習し、またそういう学習仲間と一緒に育つ力が求められるであろう、とはいえ、さあそういう集団を作りなさい、といってもできないものではない。ゼミはしばしばそういう場ではあろうが、私の見聞きするところ、教員の個人的な趣味ではないかといったテーマに学生を動員して精進となるゼミも多いようだ。

「MAP」を読んで感心したのはまず、成城大学のキャッチフレーズを自分たちで考えさせること、これは企業で言えば社員自身に理念や社是

また企業の個性を考えさせる活動に匹敵する、デキアイのものを唱喝させるのではなく。

次におもしろいと思ったのは世代間それぞれ向けの工夫と、そして世代間の連携である。最近の若者は同世代の仲良しクラブに閉じこもりがちだと言われるが、まあそういう若者が天然自然というわけではない、固りの割増一つである。先志が後世を育て、後志が先志に聞きもし、また聞き手となることで話し手自身を育てる。そうした力は学校より世代が重層的に重なっている組織の中で生きる力でもある。大学4年だけの間での世代間連携も重要だが、所詮4年の範囲、付属中学高校のある大学でもかつてはその間の学生同士の話し合い、助け合い、共同作業はごくごく振られていた。しかし成城大学はそういう幅広い世代間連携を続けている。

この雇用不安の時代、キャリア教育という悠長なことをやっていないで就活に絞れ、と言うのも大学にはいるだろう。現に私自身も大学の管理職や上司にあなたのキャリア教育はすべて失敗と言われ、キャリアアサクターをぶった。そうであるだけにいっそう、息長く活動を支援している成城大学キャリア支援部がうらやましくなると、もちろんであるが就活支援をここがより軽視しているということではない。ただ就職を越えた先で組織が採用してよかったと評価する力、それは就活の時期だけでは育ちきらないものである。ここが大切なところである。

なお最後になってしまったが「MAP」は職員の方がお世話をしているが学生たちの手作りである。その手作り感覚に溢れた本である。組織の中の職場小集団活動に匹敵する。この冊子の最後に編集者である学生たちの座談があるが、その中に「自分×仲間=成長」がこの冊子のコンセプトである。私の周りの教員に「自分への閉じこもり=停滞」に陥っている者が散見されるのと好対照である。

最終更新日 (2010/09/14 Tuesday 17:26:20 JST)

http://e-humanresourcemanagement.com/content/view/117/34/

2012/04/02

http://e-humanresourcemanagement.com/content/view/117/34/

2012/04/02

資料 6

成城大学 | 卒業生の方 | 成城大学・卒業生の方 | BSフジ「PRIME NEWS」に本学... Page 1 of 2

主編 > 卒業生の方 > 成城大学・卒業生の方 > BSフジ「PRIME NEWS」に本学就業力育成支援室 長尾繁樹がゲストとして出演しました

BSフジ「PRIME NEWS」に本学就業力育成支援室 長尾繁樹がゲストとして出演しました

2011.1.6

BSフジ「PRIME NEWS」11月24日(水)に本学就業力育成支援室 長尾繁樹がゲストとして生出演いたしました。

番組公式ホームページにて、同番組の放送内容を文章でご覧いただけます。

BSフジLIVE「PRIME NEWS」「過去の放送内容」をご覧ください。

『就活断層時代 徹底検証！大卒就職難の実態と解決策』

<ゲスト>

- 城島 光力 民主党 政策調査会長代理
- 小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長
- 常見 陽平 クオリティ・オブ・ライフ チーフプランナー
- 長尾 繁樹 成城大学 就業力育成支援室

<メインキャスター>

八木亜希子&反町 理

<解説キャスター>山本 周

<http://www.seijo.ac.jp/information/13/001077.html>

2012/03/27

成城大学 | 受験生の方 | 成城大学・受験生の方 | NHK

主編 > 受験生の方 > 成城大学・受験生の方 > NHKラジオ第一『徹底応援！“就活”ラジオ』に本学学生と職員(長尾繁樹)が出演

NHKラジオ第一『徹底応援！“就活”ラジオ』に本学学生と職員(長尾繁樹)が出演

2011.1.11

NHKラジオ第一『徹底応援！“就活”ラジオ』1月10日(月・成人の日)に本学学生と職員(長尾繁樹)が出演しました。

<ゲスト> 常見陽平(人材コンサルタント)

内定者(本学法学部法律学科4年本田有佳里さんも出演しました)

長尾繁樹(成城大学就業力育成支援室)

<司 会> 永井伸一(アナウンサー)

<番組概要> 就職活動真っ最中の大学生に向けて送る就職活動応援番組

- * 就職活動生の不安や疑問に答えるコーナー
- * 企業の探し方、研究の仕方を伝えるコーナー 他

※ウェブにて番組をお聴きいただけます。

『徹底応援！“就活”ラジオ』をご覧ください。

<http://www.seijo.ac.jp/information/10/001065.html>

2012/03/27

資料 7

厳しい就活のなかで 親と大学の位置づけも変わる

「一番身近な社会人として適切なアドバイスをしたり、つかず離れずのサポートは必要です」。2010年10月、千葉県内の私立大学で行われた父母向けの就職説明会。200人近くの父母が集まった会場で、就職支援会社ギジネスの園田雅江社長は、就職活動における「親」の重要性を訴えた。自分のことのようにメモを取りながら熱心に聞き入る父母の姿は印象的だ。

現在、多くの大学で就職活動生の父母を対象にした就職説明会が行われ、1200人の父母が参加した大学もある。「お受験」同様に捉えられることが多いが、現在の就職活動はこれまでになく、早期化、長期化、複雑化しており、家族の支えが求められている。過干渉は良くないが、それ以上に無関心が最も本人にはつらい(園田氏)。厳しい就職活動は、長期間に及ぶため、精神面のケアはもとより、金銭的な負担も大きく、「現実的」なサポートも必要だという。

一方で、大学も変化してきている。大学1年次からキャリア支援を始める大学も出てきた。成城大学は4年前から、大学1年次の有志の学生を対象にした、独自のキャリアサポートプログラムを行っている。

さまざまなグループワークを1年を通して行う。たとえば、「ブランド力を上げる新たな学部を創設してください」というテーマを与え、グループで他大学と比較するディスカッションや、プレゼンテーションなどを行う。グループワークでは、友人、先輩、社会人といった多くの人たちと関わりながら、人や社会との関わり方、考える力、主体的に行動することなどを学ぶ。自らのキャリアを考える機会を通して、就職活動に役立てようという考えだ。昨年参加した1年生は約50人で、学生もキャリア形成に関心を高めている。

成城大学就業力育成支援室の長尾繁樹氏は「いわゆる就活のための就職予備校ではなく、自分で考える力の養成に重点を置いている」と話す。一般的には、大学の本業を忘れていくという批判もあるが、「有意義な大学生活を送るという言葉のもつ意義が変わってきている」(長尾氏)ということでもある。

米国デフレ 恐怖のシナリオ この20年を分析 就職氷河

週刊 **エコノミスト** 1/25 特大号 2011

米国デフレ

住宅2番底、高失業率、消費低迷
日本の二の舞 回避に必死のFRB

止まらない値引き合戦、ギフト現金化
家計の債務圧縮にはまだ2~3年 武藤 敏博
米国は人口増加以上の住宅投資 藤谷 浩行

内定率過去最低
閉塞感 就職氷河 生む

第2回 鉄のあけぼの 黒木 亮
川崎製鉄初代社長・西山弥太郎の信念と情熱

日本株 天草剛朗オレドモ波高シ! 今月 旗
地球温暖化防止の国際協調正念場

毎日新聞社 特別定価650円

週刊エコノミスト 2011年1月25日特大号

資料 8

成城大学

『MAP(My Advanced Project)』

～自らの個性を考えて取り組むキャリア形成～

キャリア形成・経路決定支援

一人ひとりのキャリアアップのために、キャリアサポートプログラム『MAP(My Advanced Project)』を実施。少人数教育の特徴を活かして、学年学部単位を横断した学生同士の交流、成長できる場を提供されている。

学部学科、学年の枠を超えて、様々な個性や考えを持った学生同士が、本音で語り合い、真剣に向き合うことができる貴重な場にもなっている。全体のテーマは「気づき」。

能動的思考力や主体的行動力を育み、結果として卒業後の進路を切り拓く力が得られるようプログラムを構成している。全学部・全学科対象で20人程度の先輩生の募集を行っており、1年次のMAP1から4年次のMAP4まである。

取り組みとしては2006年にスタートし、開始した際の参加者は18人だったが、現在は48人まで増えている。

スタッフはファシリテーション、サポートに専し、ほぼすべてを学生に任せるとのポリシーが、種別や用途、バリエーション的なプログラムは提供しない。自分たちでやりたいことを決めさせ、考えさせ、行動させることにこだわっている。

最近の傾向・今後の課題

MAP参加者は、第一志望に内定している率が高い。納得のいく就活をしており、内定先に満足している。11年卒生においては、10年卒生よりも高い実績になっている。

取り組み

【ガイダンス】
3年次の5月からガイダンスを開始。以降定例の定期的な進め方。自己分析・業界研究・エントリーシート・面接等の対策およびセミナー直前ガイダンスと全3回のガイダンスを実施。

【冊子「就職ハンドブック」】キャリア支援部発行
「就活とは何か？」など基本的なことから、就活に対する心構え、具体的なスケジュール、取り組むべきこと、キャリア支援部の利用方法などをまとめている。企業や業界の研究で財務諸表の読み方や企業のお志、企業規模など、偏った見方ではなく、業界を俯瞰して見るための方法、企業を見るポイントを描載している。

【MAP】
1年次対象のMAP1では、「自分を知ること」→「他者を知ること」→「社会を知ること」→「自分を知ること」というサイクルを意識しながらプログラムを履修。2年次対象のMAP2では、「目標設定から行動へ」をメインに、自らの行動変容のためのモチベーションアップをテーマに構成。
3年次、4年次対象のMAP3&4では、サブテーマを「就活ワークショップ」とし、3年生と4年生が就職活動をテーマにコラボレーションすることで新たな発見や気づきを得ることを目的としている。また、4年生にとっては就活体験を後輩に伝えることで自らの振り返りにもなるように設計している。番外編として、MAP経験者が同じ学園の中学や高校でプログラムを提供し、自らの学びを発信しながらまた学ぶようなサイクルもできている。

【サイトなど「求人NAVI」】
企業からの求人票をまとめた「求人NAVI」を公開。求人検索機能、内定者の進路報告登録も可能。

【インターンシップ】
自由に応募するもの、大学へ公募されているもの他に、大学提携型インターンシップを提供。そのために事前学習(講演会やセミナー)、実施直前学習、インターンシップ体験報告会を実施し、フォロー体制を整えている。

【講演など】
5月頃から12月までグループワーク講座を実施。SPIは試験対策ガイダンス、模擬試験、試験解説と3回にわたる講座ひとまとめ3回実施している。他にも、OBOG訪問活用講座、自己分析講座、エントリーシート対策講座、面接対策講座、業界企業研究セミナーなど、ガイダンスに併行した内容でフォローをしている。エントリーシートと面接対策は、2月から同じ講座を実施し、順番両方を実施するなど、実際に面接が始まる時期に実践的な内容でのフォローをしている。

最近では、個人単位の11コースで実施するも講座も立ちあげた。少人数で、きめ細い指導ができ、参加者同士でもコミュニケーションが促進されるとともに、切磋琢磨できる環境になっている。4年生に対しては来内定者フォロー講座を実施し、キャリアカウンセラーによる面談も行う。

【OB・OG懇話会】
11月下旬に、OB・OGとの懇話会を実施している。ブースを設け、集団OB・OG訪問会形式。

【合同セミナー】
1月～2月、学内合同セミナーを実施。セミナー開催前に参加する心構え、企業を分析するポイントなどを紹介する。

【企業訪問・求人開拓】
成城大学卒業生が在籍する企業や近年、卒業生を採用いただいている企業を中心に、キャリア支援部員が交代で企業訪問を実施している。訪問にあたっては、事前に遠隔地に仕合わせ、計画的に訪問している。その際に、大学のキャリア形成支援の在り方や就職活動支援の取組み等、近況報告も行うとしている。この訪問で得た情報を学生に還元したり、訪問をきっかけに求人を探しだすこともあり、成果も生まれている。

資料 9

参加学生の感想・意見(抜粋)


MAP	
○ 考えることが多くなり、深くなった。人との間を考えるようになった。	
○ 自分に足りないものが分り、これからの3年間の過ごし方(どう過ごすか)も変化した。	
○ 上下のつながりがあるので、こうなりたいという目標が見つかった。	
○ MAPを終えて気づけるのではなく、自分自身の課題だったり、改善すべき点が見え、MAPはこれから成長していく、きっかけの場だと気付いた。	
○ この時期に、ディスカッションを通じて他人の価値観を知ること、物事について真剣にディスカッションすること、それぞれの意見をすり合わせていく過程を味わえたことや、学長の前でプレゼンテーションをする機会は貴重だった。	
○ 周りに追いつこうと自分なりに考え、あがくようになった。	
○ 経験が自分を変えた。	
○ 文字にはできない何かが変わった。	

キャリアデザイン・ワークショップ	
○ 悩む、迷うことが悪いことではない、ということに気付いた。	
○ 価値観が揺さぶられた。大学生活の見方が変わった。	
○ 「自分から良い印象を仕掛ける」という言葉に大変感動した。自分を見つめ直せし、主体的に行動していくことと再認識できた。	
○ 物事を一つの面だけではなく、複数の面から見ようになった。	
○ 「行動を起こさなければ」「何か行動を起こしたい」に変わる事ができた。	
○ 当たり前のことでも行動していけないと始まらないことが、自然に見えてきた。	
○ 他の活動を通して、このワークショップが「自分で考えて行動する」ことを助けるものだと思えた。受講して本当に良かった。	
○ ここで得たことを後輩に伝えたいと、先輩の持ち腐れで終わってしまうので、より積極的に行動する意欲が湧いている。この気持ちを与えてくれたことに感謝したい。	

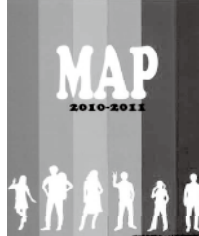
就職ガイダンス	
○ 不安が解消され勇気・希望が持てた。意識・モチベーションが上がった。	
○ 就職の現状や就職活動の情報がためになった。就職活動に必要な知識を得られた。	
○ これから何をすべきか考えさせられ、今後の目標ができた。	
○ 事例・実演が分かりやすかった。	
○ 焦りが出て気が引き締まった。自分の置かれている状況が分かった。	
○ 分がっているつもりでいたが、全然分かっていなかったことに気付いた。自分の考えの甘さを認識できた。	
○ 学んだことを実行に移そうと思った。	
○ 優良な中小企業を紹介して欲しい。	

就職支援ワークショップ	
○ 「業界・企業研究」「OBOG訪問」のやり方がわかった。	
○ 厳しいことを言っていただけで、自分の甘さに気付いた。モチベーションが上がった。	
○ 具体例や体験談があつてわかりやすかった。	
○ 他では聞けない話しが聞けた。成城大生の特性の指摘が良かった。	
○ 学んだままにするな、という言葉が印象に残った。	
○ 現実を知った。自分の考えを改める事ができた。	
○ 就職活動に向けて、何を意識するのかわかった。	
○ 求める人材像がわかった。人事目録の話が聞けた。本音が聞けた。	

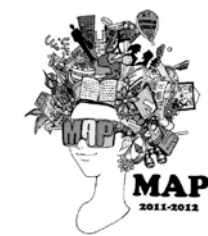
資料 10



MAP
2009-2010



MAP
2010-2011



MAP
2011-2012

活動報告書一覧

左上 : 平成21年度 MAP活動報告書
中央 : 平成22年度 MAP活動報告書
右上 : 平成23年度 MAP活動報告書
左下 : 平成21年度～23年度 本プログラム報告書

評価結果

評定：S

評定理由（総論）

本プログラムは、1～2年生向けには、キャリアサポートプログラム「MAP（My Advanced Project）」を中心としたサポートプログラムを実施し、学生に自らのキャリア形成を考えさせるきっかけを提供し、また、3年生や就職未内定の4年生向けには、少人数制の各種「就職活動支援講座」を実施し、講座を通じて学士力を身につけ自らの個性・適性にそった進路選択を実現できるよう支援することを目的とした。

具体的には、キャリアサポートプログラム「MAP」や少人数制の各種「就職活動支援講座」に加えて、キャリアカウンセラーの増員、FDやSDの実施、同窓会あるいは卒業生との連携など、幅広いキャリア支援体制が構築され、適切に実施されており、優れた取組であると評価できる。

プログラム実施により、就職（内定）率が毎年度90%を超える成果を達成したことは優れている。また、各ガイダンスの高評価、学生の高参加率、個別相談件数の大幅上昇などから見ても、プログラム全体が十分に機能していると高く評価できる。

実地視察報告

視察日：2012(平成24)年10月3日（火）



総評

本プログラムは、1～2年生向けには、キャリアサポートプログラム「MAP（My Advanced Project）」を中心とした取組により、学生に自らのキャリア形成を考えさせるきっかけを提供し、また、3年生や就職未内定の4年生向けには、少人数制の各種「就職活動支援講座」を実施して、自らの個性・適性に合わせた進路選択を実現できるよう支援することを目的とした。

特に、低学年向けの「MAP」は、「自分を知り」→「他者を知り」→「社会を知り」→「自分を知り」と言うサイクルを通して、人生の設計図を自分自身で考えさせる場を提供するプログラムである。一般に、キャリア教育は、教職員による一方通行的な取組が強調されがちであるが、「MAP」は学生の自主性に委ねている点がユニークである。

一方、高学年向けの各種講座では定員30名以下の少人数講座や、定員12名以下のミニ講座が多数用意されており、学生間で自発的に議論し自ら将来展望を見いだす能力を育成するという、本学独自のキャリアサポートプログラムを展開している。

その他にも、キャリアカウンセラー、相談員を3名から4名に増員し、また相談ブースの拡充をするなど、心のケアを含む学生個別相談体制の強化が図られている。その結果、個別相談件数は、本プログラム発足当初約3,000件であったが、3年後には4,000件まで増加した。

さらに、就職（内定）率が毎年90%を超える成果を達成したことは、プログラム全体が十分に機能していると高く評価できる。

個別事項

本プログラムの内、とりわけ、「MAP」は注目すべき取組として有識者や多数のマスコミ（BS フジ「PRIMENEWS」番組、週刊エコノミストの特集記事など）で取り上げられた。また、3年生向けプログラムはNHK ラジオ第一放送で実際の指導方法が紹介され、さらには、本プログラム全体が、経済産業省事業の「キャリア形成・就職支援 教育機関取組事例集」に掲載されるなど、広く紹介されたことは特筆される。